NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト
平成28年度活動事業報告

福島市南矢野目字夜梨 4-1
「CHANNEL SQUARE」内

日にち	主な事業内容
平成 28 年 4 月 2 日	「Spring Love 春風 2016」出店（東京都 代々木公園 ～3 日）
4 月 3 日	平成 28 年度 みんなのデータサイト「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」 開始
4 月 8 日	平成 28 年度流通品測定プロジェクト開始
4 月 8 日	平成 28 年度 ホットスポットファインダー測定(お散歩コース・通学路) 開始
4 月 12 日	第三回「しんきんの絆」復興応援プロジェクト贈呈式ならびにオリエンテーション出席(宮城県仙台市)
4 月 17 日	ふくしまくらす交流会「免疫力と発酵、福島の食について」(CHANNEL SQUARE)
4 月 25 日	東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート開催（アオウゼ多目的ホール）
4 月 29 日	東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート開催（道の駅ふくしま東和ガーデン体験室）
5 月 10 日	事業・会計監査
5 月 12 日	理事会
5 月 13 日	測定室内ファントム校正（～16 日）
5 月 19 日	通常総会
5 月 26 日	ふくしまくらす交流会「震災後の生活について考えてみよう ～生活に密着した放射能測定データをもとに～」 (みんなの家＠ふくしま)
5 月 28 日	山形県大江町 やまさぁーべ田植えキャンプ（～29 日）
6 月 2 日	洗濯物干しプロジェクト開始
6 月 16 日	ふくしま未来基金授与式&オリエンテーション出席
6 月 17 日	理事会
6 月 20 日	那須町保健センター ファントム校正（～22 日）
6 月 25 日	甲状腺検診 [認定 NPO 法人いわき市民放射能測定室たらちねとの共催] (サンライフ福島)
7 月 6 日	ふくしまくらす交流会「～智恵子さんに教わる 美味しい玄米甘酒～」(カフェギャラリー風と木)
7 月 14 日	ままとーく(みんなの家＠ふくしま) ホットスポットファインダー測定のデモンストレーション
7 月 19 日	東和 WBC 第 9 回測定（～22 日）
7 月 27 日	ふくしま未来基金報告会出席
8 月 3 日	伊藤英氏 ピアニカライブ開催（みんなの家＠ふくしま）
8 月 9 日	7 月 19 日～22 日の東和 WBC 第 9 回測定で測定できなかった方々の測定
8 月 11 日	「旅祭 2016」出店（東京都 お台場）
8 月 12 日	「TOMODACHI 米日ユース交流プログラム」 日米高校生の交流プログラムの東北ツアーの一環でふくしま 30 年プロジェクト見学
9 月 15 日	臨時理事会、臨時総会
9 月 18 日	風とロック芋煮会 2016 出店(白河市 しらさかの森スポーツ公園 ～19 日)
9 月 24 日	山形県大江町 やまさぁーべ稲刈りキャンプ(～25 日)
9 月 27 日	フクシマコミュニティづくりプロジェクト出席（郡山市 ビッグパレット福島）
9 月 29 日	ふくしまくらす交流会「生活に密着した放射能の話」(みんなの家＠ふくしま)
10 月 1 日	チャンスク秋祭り こども放射線ワークショップ出店（二本松市 あだたら高原）

10 月 16 日	土と平和の祭典出店(東京都 代々木公園)
10 月 18 日	伊達もんもの家 講演
10 月 22 日	「福島 － こころつなぐ広場 － 」出店
11 月 1 日	ふくしまくらす交流会「発酵ワークショップ Vol.02 ～ 菌と仲良く ～」(サンライフ福島)
11 月 4 日	臨時理事会
11 月 26 日	みんなのデータサイト総会出席(東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター ～27 日)
12 月 15 日	【「しんきんの絆」復興応援プロジェクト】第 3 回助成_中間報告会出席(宮城県仙台市)
12 月 29 日	秋田県避難者の福島市視察ツアー出席(CHANNEL SQUARE)
平成 29 年 1 月 4 日	関西避難の方々の福島視察「ふるさとつながろうツアー」講演(CHANNEL SQUARE)
1 月 7 日	ふくしまくらす交流会「～「風と木」の智恵子さんに教わる美味しい玄米甘酒 発酵シリーズ第 3 弾～」 (カフェギャラリー風と木)
1 月 17 日	東和 WBC 第 10 回測定 (～20 日)
1 月 19 日	タケダ・いのちとくらしプログラム成果報告会出席(東京都)
1 月 26 日	ふくしま Day2017 ふくしま NPO 交流会 in 神保町出席(東京都)
2 月 2 日	福島 NPO のつどい出席(福島市)
2 月 4 日	ほよっと全国交流会出席(二本松市)
2 月 5 日	グラスルーツアカデミー・シアトル研修 [佐原] (～13 日)
2 月 10 日	県外避難者支援 ふくしまとつながる大交流会出席(福島市)
2 月 14 日	「認定 NPO 法人取得資金」助成贈呈式(ふくしま 30 年プロジェクト)
2 月 23 日	認定 NPO 法人取得のための監査
2 月 25 日	福島の現状を知り、語り、考える会(東京都 世田谷、国分寺 ～26 日)
3 月 5 日	ふくしまくらす交流会「県民健康調査と甲状腺がんをめぐる動き」(サンライフ福島)
3 月 11 日	チャンネルスクエア 2 周年「子ども祭」玄米餅販売出店 (CHANNEL SQUARE ～12 日)
3 月 26 日	「ありがとう！3,000 件 東日本土壌ベクレル測定プロジェクト報告会」出席 (東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター)

活動報告

●食品・環境放射能測定

食品・環境放射能測定については、トータル測定数が 752 件となり、平成 25 年度以来の 700 件超となりました。【表 1】 要因としては、独自に行なった「生活に密着した放射能測定」や「流通品測定プロジェクト」、そして、『みんなのデータサイト』の「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」での測定数が多かったことがあげられます。

それぞれのプロジェクトが占める割合は以下のようになります。

「環境」の測定総数 189 件のうち、「生活に密着した放射能測定」 78 件(41.3%)

「食品」の測定総数 205 件のうち、「流通品測定プロジェクト」 73 件(35.6%)

「土壌」の測定総数 358 件のうち、「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」及び「生活に密着した放射能測定(土壌)」 241 件(67.3%)

平成 28 年度に 752 件という測定数を達成できたのは、これら、事業計画に沿って進めた放射能測定が下支えをした結果です。【表 2】【図 2】 また、こういったプロジェクト測定以外の外部依頼の件数についても、複数の団体や賛助会員からの依頼があったことにより、当初の予想よりも測定件数が伸びました。【表 3】【図 3】 ただし、団体などからのまとまった測定依頼以外の、個人からの依頼件数が非常に少なかったことも分かりました。自治体の持ち込み測定サービスの定着や、食品から検出される放射性セシウムの数値の低下、そして、市民の放射能に対しての関心の低下などから、今後も個人からの測定依頼が増えることは考えにくいと言えます。引き続き、弊法人が放射能測定データを蓄積していくためには、そのための財源を確保していくことが課題となります。

また、プロジェクト測定のなかにあっって「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」は、「みんなのデータサイト運営委員会」より測定とデータ登録 1 セットごとに料金を請求できたので、外部依頼のように測定収入を得ることができました。【表 4】 平成 28 年度は、このプロジェクトを行ったことで一定の測定数と収入を得ることができましたが、平成 29 年度は土壌プロジェクトとしての大々的な展開がありませんので、弊法人の測定実績に影響が出ると思われます。

弊法人は、初期の外部依頼による測定収入によって放射能測定の運営コストを賄えた時期から、助成金による事業によって測定体制を維持する方向へと移行してきました。平成 28 年度は、それら各プロジェクトの事業成果を、「土壌汚染マップ」や冊子として目に見える形にしたことで、現行の測定体制における一つのまとめができた年だと言えます。ただし、この測

定体制を持続するための予算確保については、今後も課題として残っています。

「流通品測定プロジェクト」「生活に密着した放射能測定」は、「『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

【表 1】年度別測定件数

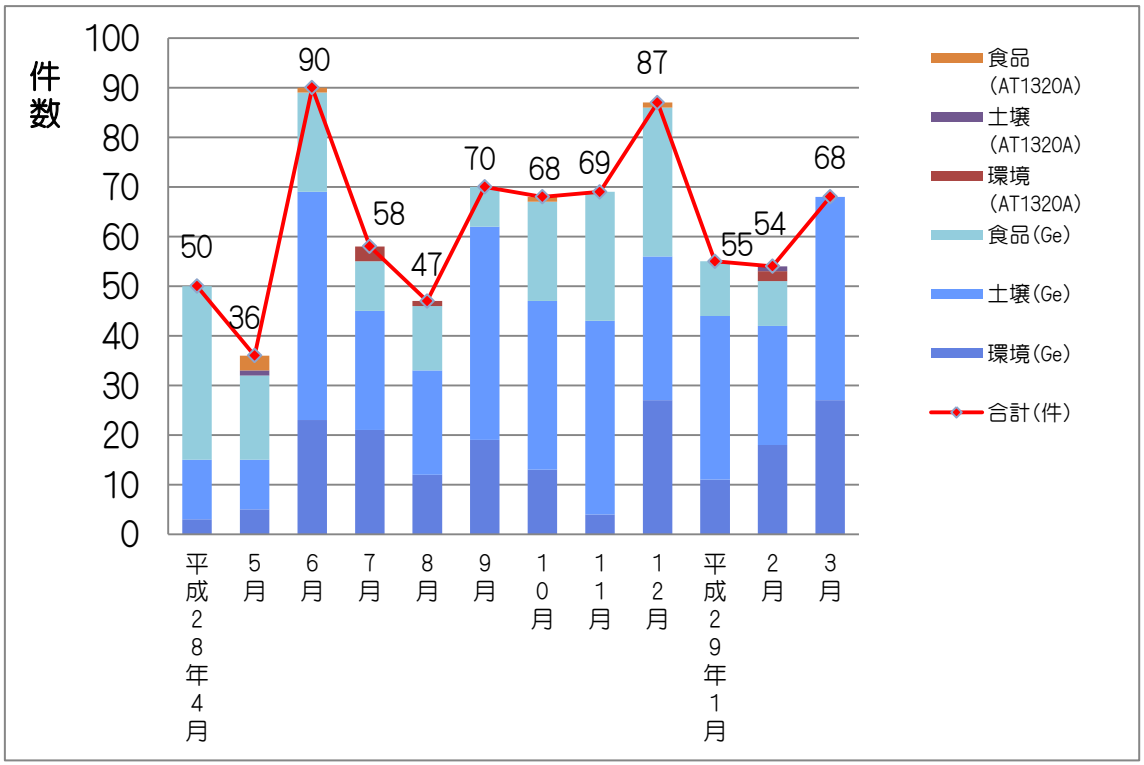
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
794	591	661	752

【表 2】平成 28 年度食品・環境試料測定件数

	環境 (Ge)	土壌 (Ge)	食品 (Ge)	環境 (AT1320A)	土壌 (AT1320A)	食品 (AT1320A)	合計(件)
平成 28 年 4 月	3	12	35	0	0	0	50
5 月	5	10	17	0	1	3	36
6 月	23	46	20	0	0	1	90
7 月	21	24	10	3	0	0	58
8 月	12	21	13	1	0	0	47
9 月	19	43	8	0	0	0	70
10 月	13	34	20	0	0	1	68
11 月	4	39	26	0	0	0	69
12 月	27	29	30	0	0	1	87
平成 29 年 1 月	11	33	11	0	0	0	55
2 月	18	24	9	2	1	0	54
3 月	27	41	0	0	0	0	68
平成 28 年度 計	183	356	199	6	2	6	752
参考 平成 27 年度 計	72	144	430	10	0	5	661

Ge＝ゲルマニウム半導体検出器、AT1320A ＝ 簡易食品測定器(NaI シンチレーター)

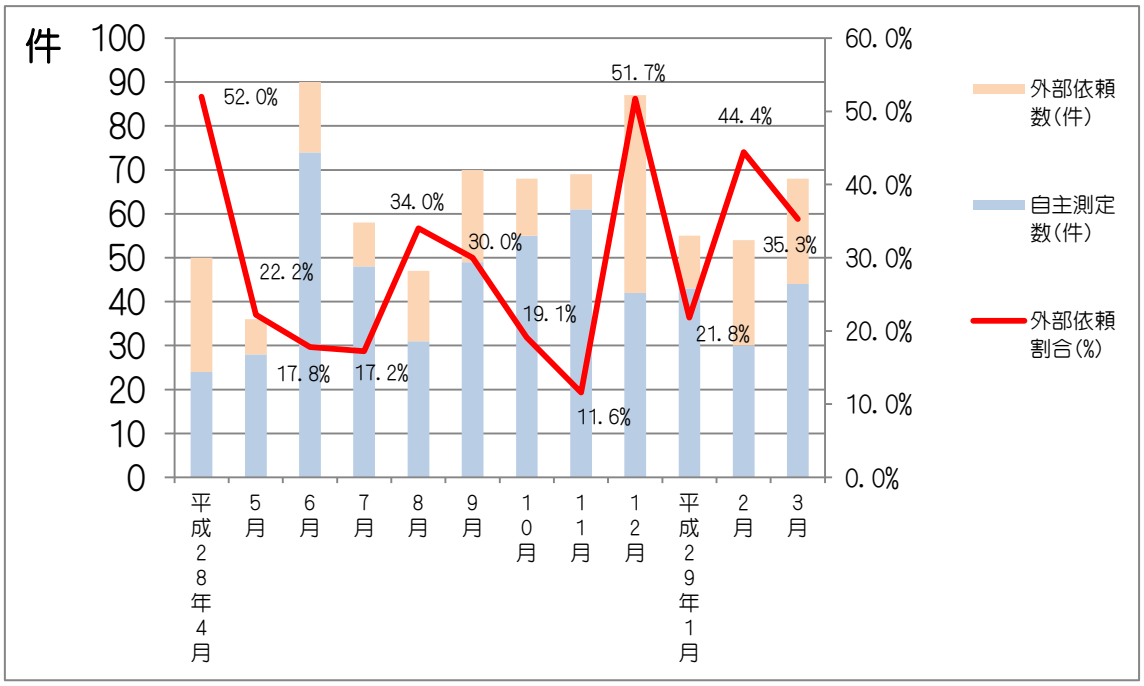
【図 2】



【表 3】外部依頼件数

	測定数（件）	外部依頼数（件）	外部依頼測定割合	備考(主な依頼者)
平成 28 年 4 月	50	26	52.0%	「NPO 法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」
5 月	36	8	22.2%	
6 月	90	16	17.8%	「賛助会員」(複数)
7 月	58	10	17.2%	
8 月	47	16	34.0%	「みんなのデータサイト」
9 月	70	21	30.0%	「みんなのデータサイト」
10 月	68	13	19.1%	「賛助会員」(複数)
11 月	69	8	11.6%	
12 月	87	45	51.7%	「南相馬市馬場 ADR 団」
平成 29 年 1 月	55	12	21.8%	「南相馬市馬場 ADR 団」
2 月	54	24	44.4%	「南相馬市馬場 ADR 団」「フリージャーナリスト」
3 月	68	24	35.3%	「南相馬市馬場 ADR 団」
合計	752	223	29.7%	

【図 3】



【表 4】全測定のなかの「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」が占める割合

	全測定数(件)	土壌プロジェクト測定数(件)	土壌プロジェクト測定割合	外部依頼測定割合(参考)
平成 28 年 4 月	50	1	2.0%	52.0%
5 月	36	8	22.2%	22.2%
6 月	90	35	38.9%	17.8%
7 月	58	15	25.9%	17.2%
8 月	47	9	19.1%	34.0%
9 月	70	27	38.6%	30.0%
10 月	68	16	23.5%	19.1%
11 月	69	29	42.0%	11.6%
12 月	87	18	20.7%	51.7%
平成 29 年 1 月	55	26	47.3%	21.8%
2 月	54	0	0.0%	44.4%
3 月	68	30	44.1%	35.3%
合計	752	214	28.5%	29.7%

●ホールボディーカウンター（WBC）測定事業

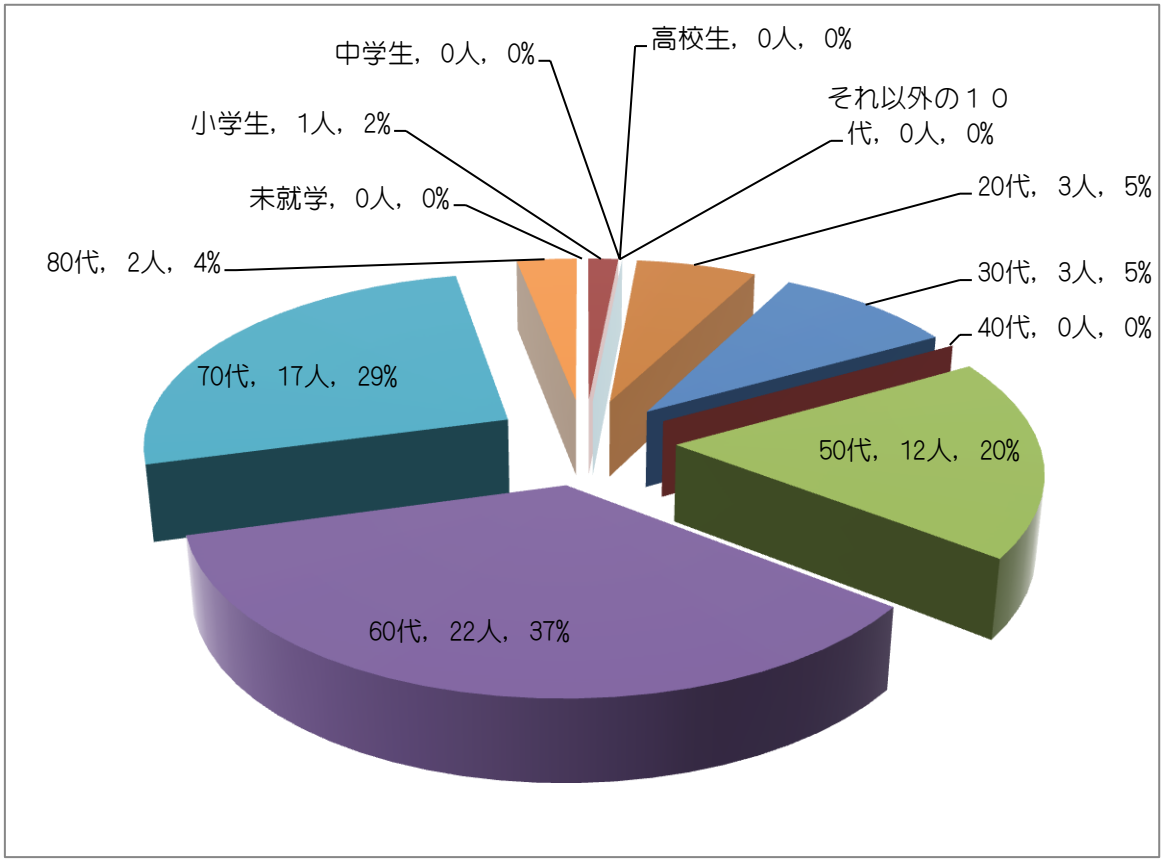
ホールボディカウンター測定については、平成 28 年度も農業者団体の測定を中心に行いました。

年月	WBC 事業内容
平成 28 年 7 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 9 回 WBC 測定
平成 28 年 8 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 9 回 WBC 結果報告
平成 29 年 1 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 10 回 WBC 測定
平成 29 年 2 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 10 回 WBC 結果報告

1.　平成 28 年度の WBC 測定実績

平成 28 年度の測定総数は、のべ 65 名となっています。その大部分が定期的に測定している農業者の方々でした。年齢的には 50 代以上の方が 8 割を占めています。【図 5】

【図 5】年代別測定割合　平成 28 年度



セシウム 137 が検出された方の人数はのべ 65 名中のべ 5 名（7.7%）で最高値は 6.64 ベクレル/kg でした。なお、セシウム 134、137 がともに検出された方は 1 名でした。年齢別では、60 代・70 代の方の検出率が高い傾向にあります。また、経年の WBC 測定で、放射性セシウムの検出する割合は、年々減少しています。

2. WBC 校正およびファントム・線源貸出事業

WBC のバックグランド校正および貸出等を下記のとおり 2 回行いました。【表 6】 なお、ファントム・線源は東京大学から借用しており管理運営をまかされています。

【表 6】

年月	依頼先	作業内容
平成 28 年 5 月	ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG 校正
平成 28 年 6 月	那須町保健センター	WBC BG 校正

●ふくしまくらす交流会

『ふくしまくらす交流会』は、計 7 回開催しました。【表 7】 参加者のアンケート結果を見ると、一年を通して概ね好評という結果を得ることができました。参加人数についても、計画時に立てた予想人数に達しており、順調に進めることができました。特に、平成 28 年 4 月 17 日開催「免疫力と発酵、福島の食について」と、平成 29 年 3 月 5 日開催「県民健康調査と甲状腺がんをめぐる動き」については 30 名を超える参加がありました。東京電力福島第 1 原発事故を経て、福島在住の方々の健康や放射線の人体への影響についての関心が、依然高いことが伺えました。

「免疫力と発酵、福島の食について」を受けるかたちで、『発酵ワークショップ』を三回開催しましたが、原発事故後に保護者の間に広まった健康や免疫を育む食への関心の高まりもあり、1 月 7 日開催の会以外、定員 20 名の参加の枠が埋まるということで、毎回、好評のうちに終えることができました。

また、『食品・環境放射能測定』報告でも触れましたが、「生活に密着した放射能測定」と連動して平成 28 年 5 月 26 日「震災後の生活を考えてみよう」では、外干しや部屋干しタオルの放射能測定への参加を募り、9 月 29 日「生活に密着した放射能の話」で、集計した測定結果の報告をしました。タオル干し測定の参加を募った「震災後の生活を考えてみよう」では、避難から戻られた方々の参加が多かったこともあり、自己紹介時に避難するきっかけや原発事故後の生活に対する不安を話しあって、それを共有するといった、『ふくしまくらす交流会』の存

在意義が確認できた会でした。

ただし、年度後半『発酵ワークショップ』の開催が多くなり、5 ヵ月ぶりに講演会形式の交流会「県民健康調査と甲状腺がんをめぐる動き」を開催しましたが、参加者の傾向が分かれてしまったことも判明しました。「県民健康調査と甲状腺がんをめぐる動き」は、原発事故後の放射線の影響として注目される甲状腺検診と、そこで発見されている甲状腺がんについての講演会でした。主催側としては、当事者である保護者に聴いてほしいと考え告知をしていましたが、参加者の中心は高齢者でした。平成 27 年度開催の交流会では、会によっての参加者の傾向がここまではっきりしていませんでしたが、ここにきて傾向がはっきり分かれてきたことが分かります。

『ふくしまくらす交流会』の始まりは、「現状、福島では放射能の不安を口にできない。普段話せない、放射能の話題や気楽に相談できる関係を作り安心につなげる」というものでした。その中で、関係づくりの一つとして『発酵ワークショップ』もありました。しかし、その関係作りから一歩進んで、弊法人が参加してほしいと考えていたテーマの会への参加を促すことができなかったと言えます。今後の『ふくしまくらす交流会』では、この点を踏まえて会の在り方を再考しなければならないでしょう。

ふくしまくらす交流会には「『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

【表 7】ふくしまくらす交流会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 28 年 4 月 17 日	CHANNEL SQUARE	「免疫力と発酵、福島の食について」	32 名	講師: 山田真医師
2	5 月 26 日	みんなの家@ふくしま	「震災後の生活について考えてみよう」	21 名	
3	7 月 6 日	カフェギャラリー 風と木	『「風と木」の千恵子さんに教わる 美しい玄米甘酒』	20 名	講師: 丹治千恵子さん
4	9 月 29 日	みんなの家@ふくしま	「生活に密着した放射能の話」	15 名	講師: 黒部信一医師
5	11 月 1 日	サンライフ福島 第 1 講習室	発酵ワークショップ Vol.02「菌と仲良く」	20 名	講師:今井豊子さん
6	平成 29 年 1 月 7 日	カフェギャラリー 風と木	発酵ワークショップ Vol.03 『「風と木」の千恵子さんに教わる 美しい玄米甘酒』	17 名	講師: 丹治千恵子さん
7	3 月 5 日	サンライフ福島 大研修室	「県民健康調査と甲状腺がんをめぐる動き」	30 名	講師: 牛山元美医師

子ども向け放射能ワークショップ

平成 28 年度は、長期休みのうち夏休みのみ開催するという予定でしたが、実際には申し込みがなく予定通りに行うことができませんでした。代りに、10 月 1 日に一般社団法人 F-WORLD 主催の『チャンスク秋祭り』で放射能クイズとして出店しました。参加人数は 10 人ほどでしたが、クイズの正解率は高く、放射能についての基本的な知識が身についている印象を受けました。

また、放射能ワークショップの申し込みではありませんでしたが、8 月 12 日に『TOMODACHI 米日ユース交流プログラム※』のスタディツアーの一環として、日本とアメリカの高校生 19 人が弊法人を訪問しました。その際に、東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第 1 原発事故の顛末を説明し、いかにして一般市民が放射能測定を始めたのかという話をしました。そして、彼らは、実際に放射線測定器を使って弊法人が入居している CHANNEL SQUARE の周囲の空間線量を測定する体験をしました。

平成 27 年度からの課題として、放射能ワークショップへの参加人数が振るわなかったことが挙げられます。学校での放射能教育に関しての年間授業時間が 2 時間しかないことが子どもたちの興味を引きづらく、校外で行われるワークショップへの参加が難しいという課題は克服できませんでした。

また、平成 28 年秋からの原発事故避難の子どもに対してのいじめ問題を受け、福島県は県内7つの小中学校をモデル校に指定し、総合的な学習の時間などを活用して放射線についての授業を多く行なうということです。それ自体は歓迎すべきことですし、報じられている授業内容も、自ら考えて、調べるということなのですが、ひっかかる点があります。この授業のきっかけが、問題になっている避難者のいじめや差別から始まっているという点です。

これは、福島県内は生活するのに問題がないのに、県外の人が放射能を理解していないために、いじめが起こるという立ち位置から始まっています。「放射能」についての知識があればいじめがなくなるのであれば、知識のある人が、避難者や県内で気をつけて生活している人を、「放射脳」と言ってバカにすることはないはずです。また、いじめでは「菌」と呼ばれることが多いのですが、一般に理解されているであろう「菌」という概念が、いじめの常套句となっていることは、理解すること、イコールいじめの解消にはならないのではないでしょうか。

これらのことからも、放射能ワークショップについては学校教育の動きを踏まえ、今後の方向性を考える時期に来たと思われます。

※『TOMODACHI 米日ユース交流プログラム』は日米の高校生が双方向での交換留学を通し、異文化に対する気付きや理解を深め、社会起業家としての精神や地域コミュニティーに対しての社会貢献のあり方を学びます。
[『TOMODACHI 米日ユース交流プログラム』サイト、プログラム・活動ページより]

●ホットスポットファインダー測定（空間線量マップ化）事業報告

平成 28 年度は、ホットスポットファインダー測定を 77 件行ないました。【表 8】【図 9】

測定依頼の傾向としては、平成 27 年度は保育園や小学校からの依頼が多かったのですが、平成 28 年度は市民からの依頼が大半を占めました。これは、空間線量マップ化事業の計画として、平成 29 年度に避難が解除される地域や、既に避難が解除された地域の空間線量測定を行ない、帰還や生活する上での指標にしてもらうことを目指したからです。結果として、避難者や、元避難者からの測定件数が多くなりました。先述したとおり、帰宅困難区域以外の多くが避難解除されることと、自主避難者の住宅支援打ち切りなどの状況によるものと考えられます。

そして、避難帰還者の支援団体からの依頼もコンスタントにあり、支援団体を介して紹介された帰還者と一緒に、子どもたちが行く公園などの測定を行ないました。また、同じ支援団体からの要望により、団体スタッフや帰還者を対象とした放射線の研修事業を行ないました。実際にホットスポットファインダーを使用して一緒に測定し、放射性物質が集まりやすく汚染の高い場所の特徴を学ぶ機会になりました。

また、伊達市のＣエリア（面的除染対象外区域）在住の方が、伊達市に自宅の除染の要請をするために依頼してくる例がありました。この場合、伊達市へ提出する書類に空間線量の資料を添付するための依頼であり、自治体ごとの除染施策の違いが、測定の需要を生んでいることが分かりました。

反省点としては、避難者や、元避難者への情報提供が十分にできなかった点が挙げられます。全体の測定数としては目標値を達成していますが、避難者や元避難者への情報提供については十分に目標が達成できたとは言いづらい状況です。原因として、原発事故から丸 6 年を迎え、解除と同時に帰還を決めた方などは逆に空間線量については気にしないという方が多かったこと。また、弊法人は、福島市を活動拠点としているため、避難地区や解除地区との繋がりが弱く、依頼者を集めきれなかったということもあります。

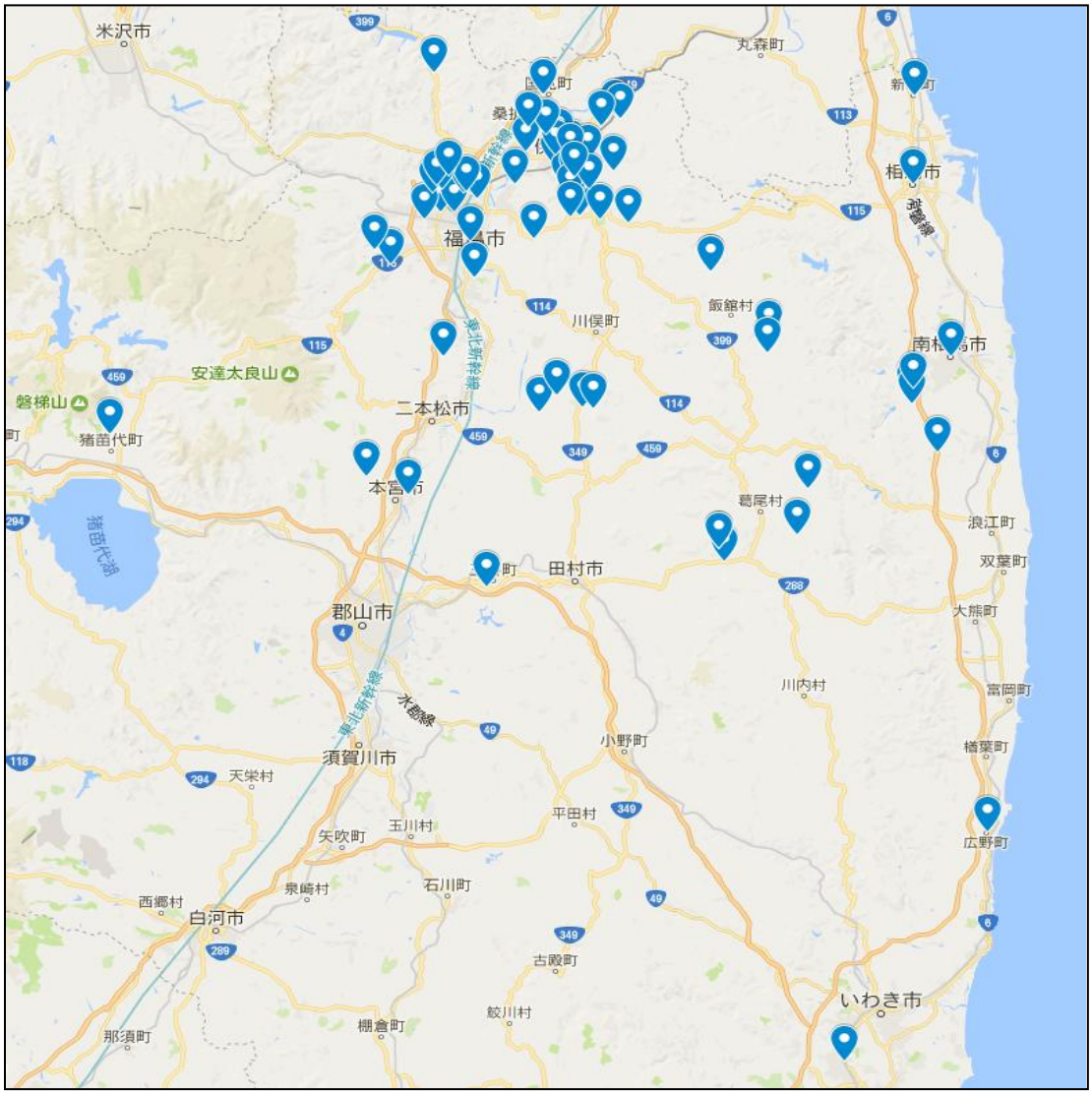
今後の空間線量マップ化事業としては、これらの点を見直して計画を立てる必要があります。

ホットスポットファインダー測定には「『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」、「ふくしま未来基金 まちづくり草の根助成」の助成金を活用させていただきました。

【表 8】ホットスポットファインダー依頼先分類

分類	測定件数
避難者	20 件
保護者・市民	37 件
支援団体	11 件
保育園	1 件
企業	2 件
自主測定	6 件
合計	77 件

【図 9】ホットスポットファインダー測定場所



● **みんなのデータサイト（市民放射能測定データサイト）**

http://www.minnanods.net/

参加測定室　全国 32 の放射能測定室

登録データ数　14,167 件（弊法人登録データ数 3,213 件）平成 29 年 3 月 31 日現在

土壌データ数 3,148 件（弊法人登録データ数 336 件）平成 29 年 3 月 31 日現在

弊法人は、市民による放射能測定のデータの共有や連携を目指して立ち上げた「みんなのデータサイト」に、幹事団体の一つとして参加しています。

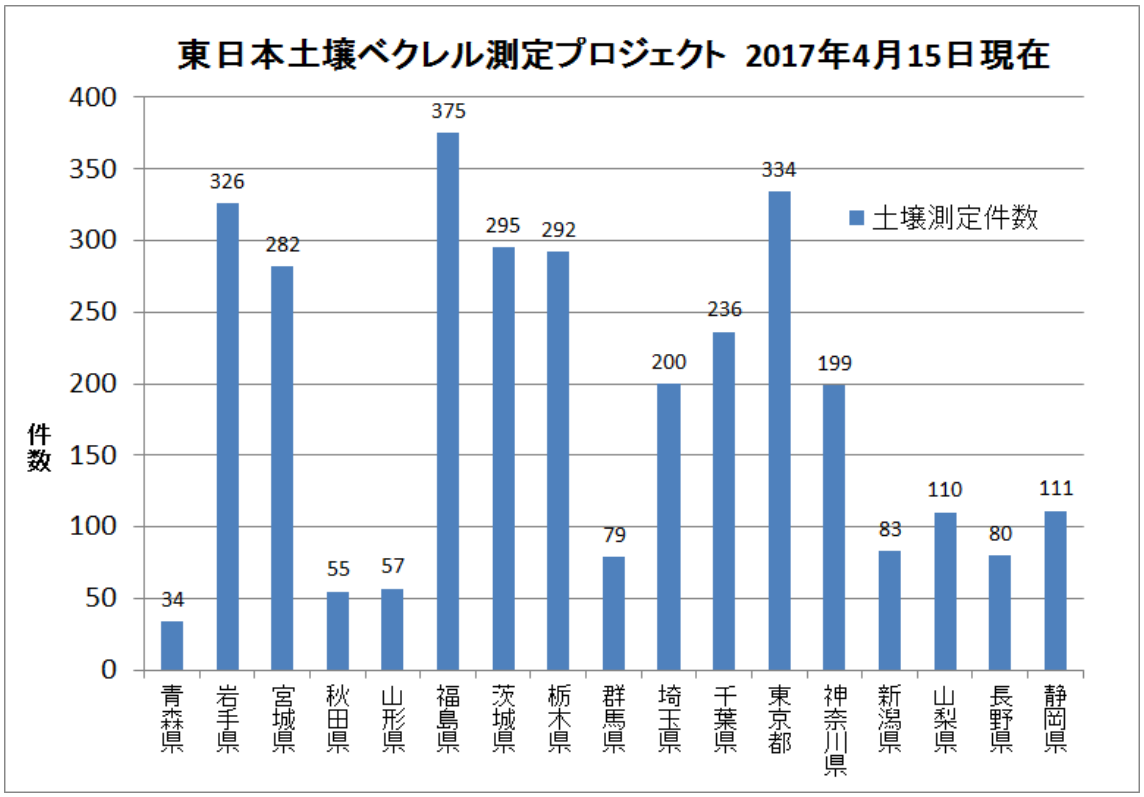
平成 28 年度、『みんなのデータサイト』は平成 27 年度に引き続き、「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」をメインに活動しました。このプロジェクトは東日本 17 都県の土壌に含まれる放射性セシウムを測定し、放射能マップを作成することを目指しています。行政によって空間線量のマップは制作されましたが、土壌のマップは制作されていません。空間線量だけでは知りえない汚染について、土壌を詳細に測定することで明らかにしていきます。現在は、サイト上に Google マップを利用して数値を表示させていますが、最終的なプロジェクトの成果として印刷物のマップを制作する予定になっています。

土壌の測定件数としては、平成 28 年度末で 3,148 件となり、第 2 期の目標としていた 3,000 件を達成することができました。【図 10】 これにより、当初の目標としていた東日本 17 都県の土壌汚染マップは一つの形になりました。今後は市民参加による「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」は終了し、『みんなのデータサイト』参加測定室が行なう採取キャラバンで空白域を埋め、マップの更新をすることになっています。

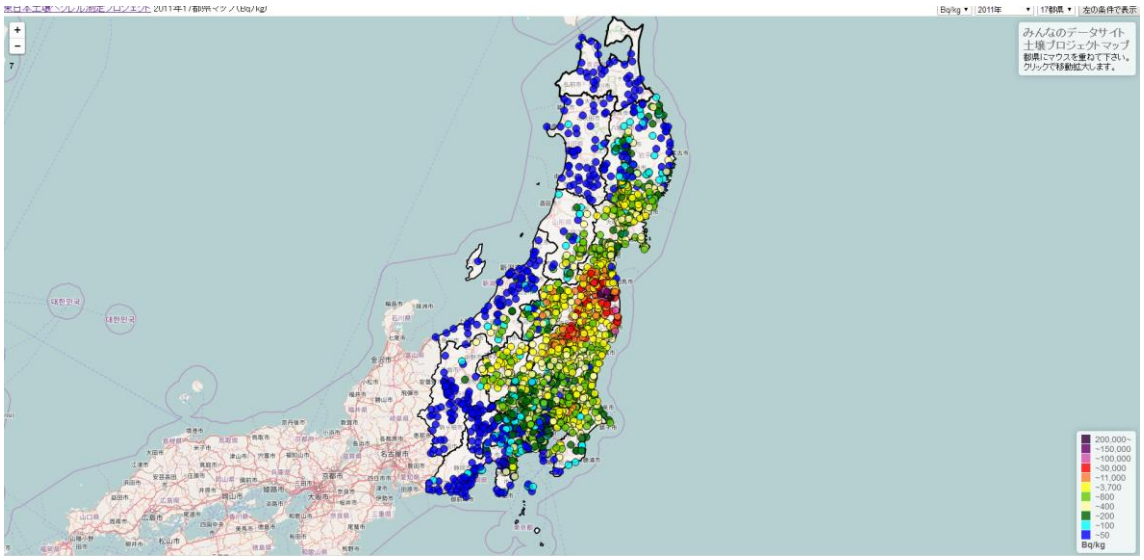
福島県内の測定データは 375 件ありますが、そのうち 305 件は弊法人で測定したデータになります。また、土壌採取についても、ほぼ単独で行ないました。これは、他の事業とも共通する問題ですが、福島県内の放射能への関心の低下が影響しています。このプロジェクトの本来の主旨は市民との協働で土壌汚染マップ作成を行なうというものでしたが、残念ながら福島県内で関心を呼ぶものではなかったと言えます。

ただし、17 都県の 3,148 件の測定情報はデータベースに登録されており、それを活用して計算した 2011 年 3 月時点の放射能データを表示することができます。【図 11】 また、30 年後や 100 年後の放射能データの表示も可能ですので、この原発事故の影響が長期に及ぶことが確認できます。

【図 10】各都県別測定数



【図 11】2011 年 3 月に遡った数値で表示している土壌汚染マップ



[http://www.minnanods.net/maps/zoommap/prefs/index.html?pref=prefs17&m2_kg=kg&time=2011&sum_137=sum]

●子どもの自然体験と交流事業

平成 28 年度は、子どもの自然体験と交流事業の新機軸として、山形県にある「大江町山里交流館やまさぁ一べ」の協力を受けて、田植え・稲刈りを中心とした農業・自然体験を行ないました。【表 12】【表 13】 震災後、子どもたちが土に触れる機会が少なくなったこともあり、山形県西村山郡大江町で触れた田んぼの土の感覚や、頑張って夕方までかかって全部手刈りしたことなど、貴重な体験ができたと思われます

そして、稲刈り後に脱穀したモチ米を「やまさぁ一べ」からいただきました。そのモチ米は、玄米切餅に加工したうえで販売していますが、同製品の売り上げは、平成 29 年度の子どもの自然体験と交流事業の活動資金に充てる計画です。また、3 月 11 日、12 日開催の『チャンネルスクエア 2 周年「子ども祭」』で、田植え及び稲刈りに参加した子どもたちと「いそべ焼き販売体験」を行ないました。子どもたちは、このイベントでの販売体験をしたことで、田植えから始まり、それを製品化したものを販売するところまでの一連の体験をしました。わたしたちとしても、一年間の時間をかけて子どもたちに体験してもらう事業を完遂することができました。

このように、平成 28 年度の子どもの自然体験と交流事業には手応えを感じることができました。平成 29 年度以降もこの流れを継承しつつ、他団体と協力して自然体験交流活動を行なっていきます。

子どもの自然体験と交流事業には「WCRP フクシマ コミュニティづくり支援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

【表 12】主催した子どもの自然体験・交流事業

日にち	場所	参加人数 （ｽﾀｯﾌ含む）	主な活動内容
5 月 28～29 日	山形県大江町	33 名	田植えキャンプ
9 月 24～25 日	山形県大江町	36 名	稲刈りキャンプ
3 月 11～12 日	チャンネルスクエア	16 名	いそべ焼き販売体験

【表 13】協力実施　子どもの自然体験・交流事業

協力先団体名	協力回数	協力人数
パルシステム生活協同組合連合会 TEAM 毎週末みんなで山形	8 回	16 人日
NPO 法人青空保育たけの子	5 回	5 人日
FoE Japan ぽかぽかプロジェクト	2 回	4 人日
NPO 法人ライフケア　佐渡へっついの家	1 回	1 人日
合 計	16 回	26 人日

●冊子・通信発行

◆「ふくしま 30 年プロジェクト通信」 発行 10 回（各 180 部前後）

◆「ふくしま 30 年リポート」 発行 3 回（増刷各 1,000 部）

・ふくしま 30 年リポート Vol.02 「食品の放射能について 増補版」

・ふくしま 30 年リポート Vol.04
「小児科医山田真先生に聞く『免疫力って?甲状腺癌って何?』」

・ふくしま 30 年リポート Vol.05 「ふくしま 30 年プロジェクト通信総集編」

「ふくしま 30 年リポート」については、平成 27 年度に発行した各冊子の在庫が尽きたことと、内容の需要があることから増刷を中心に行ないました。ただし、事業計画では通年で 4 冊発行としていたわけですが、それには 1 冊及ばない結果になりました。【図 14】【図 15】 また、「ふくしま 30 年プロジェクト通信」についても 12 回発行のところが 10 回の発行で終わってしまいました。

冊子・通信作成及び発送には「『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

【図 14】ふくしま 30 年プロジェクト通信

【図 15】「ふくしま 30 年リポート」Vol.02、Vol.04、Vol.05

●コンサート

4 月 25 日(月) 東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート

(アクティブシニアセンター・アオウゼ 大活動室)

4 月 29 日(金) 東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート

(道の駅ふくしま東和ガーデン体験室)

8 月 3 日(水) 伊藤英 超絶ピアニカライブ (みんなの家＠ふくしま)

平成 28 年度も平成 27 年度から引き続き、チェロコンサートやピアニカライブを行ないました。各回の入場者数は、チェロコンサート 4 月 25 日約 50 名、4 月 29 日約 30 名 ピアニカライブ約 30 名となりました。チェロコンサートでのアンケート結果からは、多くの方から満足との感想が得られました。

●講演等

平成 28 年

10 月 18 日(火)　伊達 もんもの家（清水）

平成 29 年

1 月 4 日(水)　関西避難の方々の福島視察「ふるさとつながろうツアー」（阿部）

1 月 26 日(木)　ふくしま Day2017　ふくしま NPO 交流会 in 神保町（佐原）

●書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上、94,214 円、物品販売売上　224,680 円

測定器レンタル利用者数　のべ 5 人

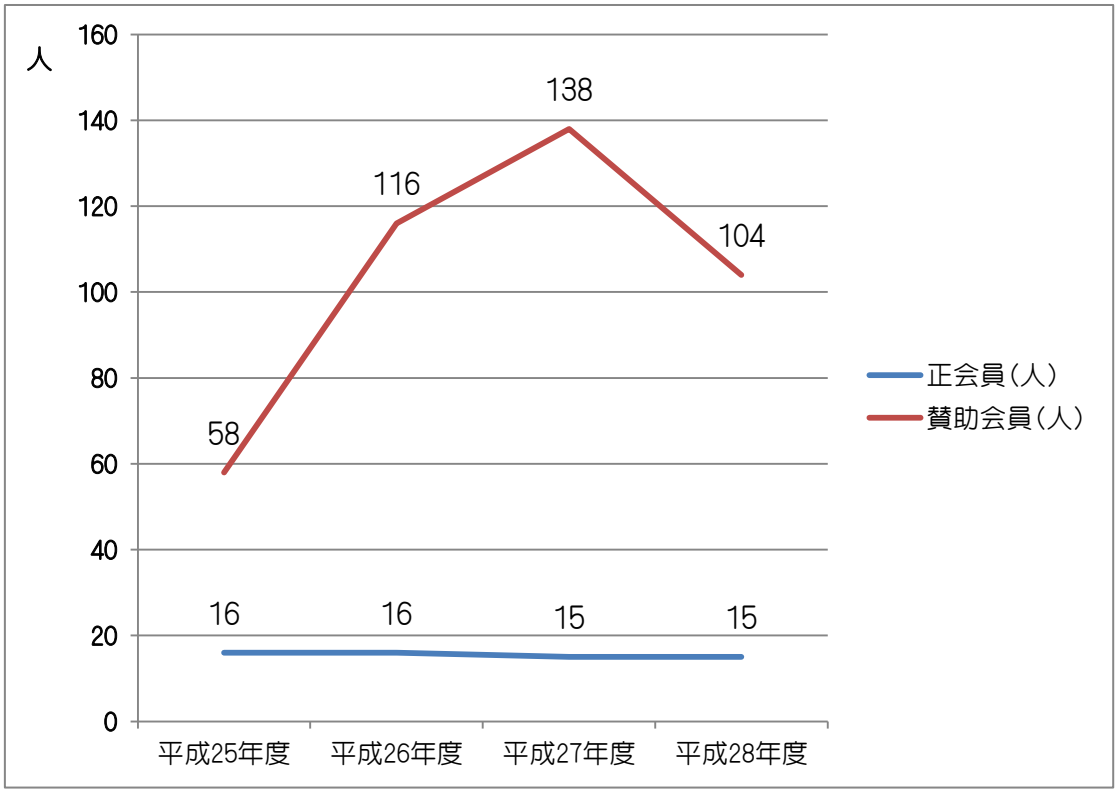
●会員数

平成 28 年度末の時点で正会員は 15 名と増減はありませんでしたが、賛助会員については 104 名となり、138 名から 34 名の減少となっています。【表 16】【図 16】 CHANNEL SQUARE に事務所を移転して以降、賛助会員の増加を目指してきましたが、現状としては結果が出ていないと言えます。

平成27年度事業報告書でも同じ問題に触れましたが、この一年で改善することはできませんでした。ニュースレターを発行するなど、引き続き活動の報告や福島県を取り巻く時事の話題を取り上げましたが、内容面で物足りなさ、興味を引く内容ではなかったのかもしれません。

また、弊法人の賛助会員になる理由としては、団体を応援する意味合いと、放射能測定の割引を利用したいという二つの理由があります。これまでの傾向を見ると、応援したいということで賛助会員となった方が会員の継続をしてくれています。このことからも、特典だけでは継続的な支援は望めませんので、市民が応援したい団体と思える魅力をどうやって表現していくか。再度、検討しなければなりません。

【表 16】会員数推移

	正会員(人)	賛助会員(人)
平成 25 年度	16	58
平成 26 年度	16	116
平成 27 年度	15	138
平成 28 年度	15	104

【図 16】